県内初の義務教育学校へ向けて　　平成２９年８月２１日（月）文責：校長　惣田　正宏

黒島小中学校だより　～立秋（りっしゅう）の頃

～立秋、夏休みもあと１０日です～

暦の上では、「立秋」。秋の気配が感じられる頃とされています。温暖化の影響でしょうか、日中は残暑厳しく、秋の訪れは、まだまだ・・・のようです。ただ朝夕は、それでも風のそよぎや雲のかたちに、どことなく秋の訪れを感じられるのは、私だけの思い込みでしょうか。

お盆は、ご先祖の供養をする中で、家族や親戚、島を離れたご近所の方々等、久しぶりの再会があり、にぎやかな時間を過ごされたのではないでしょうか。子ども達にとっても、とても大切な時間だと思っています。私も、雲仙国見町にある先祖の墓にお参りをしてきました。草取りや墓石の掃除、猛暑の中ではありましたが、その中で、心静かに時間を過ごすことができました。

さて、長い夏休みも後１０日を残すのみとなりました。子ども達は計画的に、夏休みの課題に取り組んでいるでしょうか。早くも中学生は、運動会に向けての活動を開始したようです。少しずつ、前期後半の開始に向けて、心身を慣らしていってほしいものです。前期後半は、前期のまとめの時期でもあります。まだまだ、残暑厳しい中ではありますが、しっかりと力がつくよう授業の充実に努めたいと思います。



【平和集会　８月９日】

県民祈りの日の９日、小中合同で平和集会を行いました。最初に左写真にあるように、小学生一人一人による「平和の誓い」の発表がありました。その後、中学生が原爆や戦争について学習したことをプレゼン発表をしました。１１時２分前後は、テレビの平和式典を視聴し、一緒に黙祷を捧げました。式典は、小学生にとっては難しい内容もありましたが、全員が雰囲気を受け止め、しっかりと感じ取っていたようでした。

【さだまさしさんの講演を聞いて思ったこと　８月１８日】

日本連合教育会の長崎大会が長崎ブリックホールで、全国から２千人を超える現役・退職の教職員、PTA関係者が集まり開催されました。特別講演は、本県出身のさだまさしさんでした。私は、実はグレープ時代からの隠れファンで、今回の講演をとても楽しみにしていました。講演といっても、ギターがちゃんと準備されており、１時間半の講演の中で、実に６曲も歌われました（ミニコンサートですね）。１曲目は「案山子（かかし）」。私の一番好きな曲でもあります。歌を聴いているうち、いつしか１５歳で黒島を離れる本校の子ども達、その家族の気持ちを重ねていました。さださん自身も中学１年の時、単身東京に出ています。故郷を離れる日、さだ少年を乗せた蒸気機関車が母校の小学校が見える場所にさしかかります。その時、当時の校長先生や担任の先生、同級生が横断幕を持って見送る姿が見えたそうです。それまでは絶対泣かないと決めていたさだ少年でしたが、たまらずトイレに駆け込み号泣したそうです。「案山子」の歌詞には、そんな思いがいっぱいつまっているのかもしれませんね。また、長崎出身ということで、平和の大切さについてもしっかりと発信されています。８月６日広島原爆の祈念日に長崎から平和のメッセージを送るコンサートを長い間続けてこられました。「戦争の時、真っ先に奪われるのが音楽である。」という思いを強く持ちながら。東日本大震災の時は、その惨状に「未曽有の災害の前には、音楽は無力ではないか。」と悩んだそうですが、それでも何度も被災地に赴き「久しぶり笑い、そして泣くことができた。」という被災者の声を力に活動を続けたそうです。

最後に歌ったのは、小説も書き、映画化された「風に立つライオン」でした。彼は同名の基金を立ち上げています。「大きなことはできないけれど、基金で救えるいのちがある限り活動を続けます。我々は小さな志の集合体です。」と、仲間と共に地道に活動を続けています。（次の日は熊本の被災地でコンサートをされています）その歌に、その言葉に、その思いに泣き笑いした１時間半でした。さださんが同郷であることを改めて誇りに思うとともに、この感動を子ども達に少しでも伝えていきたいと思わずにはいられませんでした。